

# ムーアカデミー通信



Aichi Kaisho Forest Center News Letter Vol.44 Winter 2019

幹がねじれることが名前の由来です。ネジキ、ザイフリボク、コクサギの3種類の冬芽は美しいので日本3大美芽と呼ばれています。



ネジキの冬芽

## 今号のトピックス

- ・海上の森ミニセミナー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ (2p)
- ・この人・・・・・・・・・・・・・・・・三河きのこの会 木村修司さん (3p)
- ・海上の森散歩・・・・・・・・・・・・・・・・秋～春に咲く木の花を求めて (4p)

## サツマイモの収穫が行われました

令和元年10月6日(日)に体験学習プログラムの「里と森の教室」が開催されました。

当日は午前中にサツマイモの収穫をしました、午後には除伐作業をしました。

サツマイモの収穫では、初めにスタッフからサツマイモの掘り方の説明を受けて作業に取り掛かりました。紅はるかや紅あずまの2種類を収穫しました。特に紅はるかは成長がよく、大きなものがたくさん収穫できました。



## 海上の森ミニセミナー

海上の森ミニセミナーでは、様々な分野の講師の方をお招きして、話題提供をお願いしています。

今年も様々な話題を提供していただきました。

最初は5月に地域環境計画の井原寛人さんをお招きして、「ムササビのテレメトリー調査」について話題提供していただきました。ムササビの生態や調査の方法をお話していただきました。

6月には赤津自然観察会の上杉毅さんをお招きして、「瀬戸の変形菌」についてお話していただきました。動物でも植物でも菌類でもない変形菌類の奇想天外な生き方や動きなどのお話をしていただきました。

7月には全国地蜂連合会の方々に「“へボ”がいるよ！クロスズメバチから深める里山の自然と文化」についてお話していただきました。方言でへボと呼ばれるクロスズメバチの捕獲方法などのお話をしていただきました。また、実際にへボの巣を取ってきて展示室横に巣箱を設置して展示(写真1)させていただきました。

8月には東洋蝙蝠研究所の橋本肇さんをお招きして「あいちのコウモリ‘18～’19～あいちコウモリ調査隊発足から1年～」についてお話していただきました。コウモリがどのようなところに住み、どのような暮らしをしているのかといった基本的な話から、ちょっと変わった夜行性のコウモリの調査方法についてのお話をしていただきました。

9月には株式会社フジプロパティ森林公園管理事業部植物園担当の廣永輝彦さんをお招きして「芽生えを見つめよう～タネからとびだした小さな植物たち～」についてお話していただきました。タネを播きはじめてきっかけや、発芽させるまでに根気がある植物・育てることが難しい植物などのお話をしていただきました。また、センター入り口にてポット苗の展示(写真2)をさせていただきました。

10月には「この人」に投稿していただいた、三

河きのこの会会員の木村修司さんに「きのこ狩りだけではないきのこの魅力」についてお話していただきました。食毒の見分けに注目されがちなキノコを食毒以外の様々な魅力についてお話していただきました。(写真3)

次回は少し先になりますが2月22日(土)に「海上の森でみられるカミキリムシ(仮)」を予定しておりますので興味のある方は是非ご来館ください。



(写真1) へボの巣箱の設置の様子



(写真2) ポット苗の展示



(写真3) 第35回ミニセミナーの様子

## この人

## きのこに夢中 ～三河きのこ会会員 木村修司さん～

海上の森は自然環境に恵まれ、たくさんの動植物やきのこが観察できます。大きく目につきやすいきのこから、小さくてもきれいなきのこ、注意して探さないと見つからないきのこなど、今までに名前が分かっただけでも 500 種類以上のきのこが見つかっています。しかし、きのこはいつも生えているわけではありません。

きのこの本体である菌糸は朽木や土の中にいてもきのこを作らなければ見つかりません。生えている期間の短いきのこは、数日で朽ちてしまいます。生えている時に生えている場所でなければ見つからないのですから、生えることの少ないきのこを見つけた時は、宝物を見つけたような気持ちになります。

でも、きのこは一般的にはきのこ狩りの対象で、自然観察の対象とはなっていません。野生のきのこは食べ物として見られていて、身近な生き物として愛でられることが少ないのです。例えば、百人一首には桜を詠んだ句が 7 首、紅葉も 7 首、昆虫はきりぎりす、野鳥は千鳥、山鳥などが詠まれているのにきのこは詠まれていません。家紋は一年中青々としている松や竹、笹、子孫繁栄を願う種子の多い植物などが、野鳥では鷹の羽や鶴などが、昆虫には蟬、蜻蛉、蝶などがあるのにきのこの家紋はありません。さらに花札、花札ですから植物が多いのは当たり前ですが、野鳥の鶴、雁、鶯など、さらに猪鹿蝶と昆虫まで札に描かれているのにきのこは使われていません。愚痴はさらに続きます。皆さんが子供の頃に親に聞かされた童謡や唱歌に桜や菜の花、鳥や鳩、赤とんぼや黄金虫など動植物の歌がたくさんあったと思います。では、きのこはどうだったでしょう。自分の子供にもきのこの歌は、歌ったことはないでしょう。どうしてきのこの文化は食文化に特化していて、風情を愛でることが少ないのでしょうか。

50 年程前、野鳥は食べる物か籠の鳥として鳴き声を楽しむことがほとんどでした。「趣味は野鳥

観察です。」と言うと「見るだけなの、声を聞くだけなの、それで何が面白いの。」と不思議がられたものです。それが今では「バードウォッチングとはよい趣味をお持ちですね。」と言われる。

毒きのこでもきれいなきのこもあれば、変わった形をしたものもあります。光るきのこもあれば草木染の材料と同じように利用できるきのこもあります。山奥に行かなくても身近な公園や緑地、近隣の雑木林に何種類も生えています。道端の草木の葉は毒がなくても食べません。堅い、苦い、渋いなど美味しくないからです。きのこも同じで、野生きのこのほとんどは毒がなくても美味しくありません。縦に裂けるきのこは食べられる、赤いきのこは毒があるなど多くの迷信や間違っただきのこの見分けで中毒事故を起こさないように講座や展示を行いながら、きのこを自然観察の対象とする人が増え、「きのこの観察とはよい趣味をお持ちですね。」と言われる日が早く来ることを願って、もうしばらく身勝手サポーターを続けます。

## プロフィール

泥んこ遊びに魚釣り、野鳥観察、虫探し、自然に親しみ 70 年。30 年程前からきのこの観察を始め、今は冬虫夏草菌と地下生菌に熱中。豊田市在住



カゴタケ

ツチダンゴの 1 種から生えた  
ミヤマタンポタケ

## 海上の森散歩

## 秋につける木の実と春に咲く木の花を求めて

海上の森には、道沿いを散策するだけでも140種ほどの樹木が観察できます。そこで、今回は秋から春にかけて、海上の森で観察できる美しい木の実と木に咲く花を紹介します。

さて、秋に見られる美しい実としては、クマツヅラ科のクサギの実があります。光沢のある青い実を赤い花びらのようなガクが引き立てる独特の実です。また、名前の由来にもなった紫色の実を多数つけるクマツヅラ科のムラサキシキブ。赤い実が重なるようにつくスイカズラ科のガマズミ。花では、小さな白い花ですが香りの良いモクセイ科のヒイラギ。年を越えて、枝先に赤い花が美しいツバキ科のヤブツバキ。そして、白からややピンクかかった白い壺状の花を多数つけるツツジ科のアセビ。黄色い細長い線形の花はマンサク科のマンサクです。3月から4月になれば春本番。この秋から海上の森散歩に出かけませんか。

## 木の実と木の花の目安

|   |   |   |
|---|---|---|
|   |   |   |
| ガマズミの実 10月頃   | ムラサキシキブの実 11月頃  | クサギの実 11月頃  |
|  |  |  |
| ヒイラギ 11月～12月  | ヤブツバキ 1月～4月   | マンサク 2月～3月  |
|  |  |  |
| ヒコゴシ 3月～4月  | アセビの花 3月～5月   | オオカメノキ 4月～6月  |

## 編集後記

これから冬に向かい、日中でも冷え込むようになり、木々は落葉をし始め、寂しい季節になっていきますが、葉っぱが落ちることで野鳥の観察をしやすくなる季節でもあります。

編集・発行 あいち海上の森センター(ムーアカデミー)

発行日 2019年12月26日

〒489-0857 瀬戸市吉野町304-1

TEL: 0561-86-0606 FAX: 0561-85-1841

E-mail: kaisho@pref.aichi.lg.jp

URL: <http://www.pref.aichi.jp/kaisho/>